

令和7年12月24日(水)後期前半終了集会

昭和100年の節目に

後期前半の終了にあたり、文武両道の富士見中学校の活躍の様子を振り返る。

〔学校行事〕校内音楽会・2年生の東京校外学習

〔部活動等〕東日本ラグビー大会・関東駅伝大会・新人戦上位入賞・吹奏楽部やパソコン部の活躍 他にも、生徒会専門委員会、日常の授業の様子など

今年もあと数日を残すのみとなりました。今年2025年は昭和元年から数えてちょうど100年目にあたります。この節目に、まずは100年間を振り返ってみます。

昭和100年を振り返ると…

| | |
|--------------------|----------------------|
| 1945年(昭和20年) | 広島・長崎に原爆 終戦 |
| 1953年(昭和28年) | 地上波のテレビ放送開始 |
| 1964年(昭和39年) | 新幹線開通 新三種の神器 (?) ? ? |
| 1974年(昭和49年) | コンビニエンスストア開店 |
| 1983年(昭和58年) | 任天堂「ファミコン」 |
| 1989年(昭和64年 平成元年) | 平成に改元 消費税3%導入 |
| 1995年(昭和70年 平成7年) | Windows95が発売 |
| 2020年(昭和95年 令和2年) | 新型コロナウィルス感染流行 |
| 2025年(昭和100年 令和7年) | 現在 |

新三種の神器
① カラーテレビ
② 車
③ クーラー

(←左シートをもとに大まかに振り返る)

皆さんの中学生ですので、今度は、昭和時代を「学校」という視点で観てみたいと思います。その時にちょうどいいのが、1年前に放映していた「不適切にもほどがある！」というドラマです。2024年の流行語大賞に「ふてほど」が選ばれたくらいですから、皆さんも知っているのではないかでしょうか。1986年(昭和61年)から令和時代にタイムスリップした、葛飾区立第六中学校の体育教師で野球部顧問でもある「小川市郎」が主人公です。ドラマの中では、小川市郎先生が勤めている学校の様子がしっかりと描かれています。「地獄のオガワ」の異名がつくほどの「スバルタ教育」でした。私自身も昭和の時代に中学校生活を送りましたので、昭和の学校については実感をもって語ることができます。印象深いのは校則の『男子は全員「五分刈り」』、部活では休憩時間に水を飲むことは許されないという、今では信じられないようなルールです。各家庭では、一家に一台の「黒電話」がありました。夜など、友達に連絡がある場合には、電話番号を指で回します。電話がつながると大概は電話に最初に出る大人に、名を名乗り、用件を説明し、代わってもらう必要があります。電話の内容も周りに人がいることが前提でした。時代は進み、2015年(昭和90年 平成22年)には、スマホ普及率が5割に到達しました。スマホ普及によるプラス面は大きいです。比較をすれば、とっても便利になりました。すぐに人とつながり、すぐに必要な情報を得ることができます。しかし、スマホの使い方が過剰であったり不適切であったりするような場合には、マイナス面も生じてしまうのです。数年前に「スマホ脳」という本が話題になりました。この本によれば「スマホ依存症」が心配されます。人類がこれまで体験したことのないようなストレスは、睡眠障害や集中力の低下を招きます。当然、学習面や体力面への深刻な影響があります。視力の低下も懸念されます。本校の「メディア利用時間は2時間以上が5割」という結果が、今年9月に実施した「HQC生活習慣改善プロジェクト」からわかります。他にも、「SNSトラブル」も想定できますね。そして、「人間関係の希薄さ」という課題も浮き彫りになってきます。これは、現代社会全体の大きな課題もあります。令和の時代に、本当に必要なものは「人と人とのつながり」なのだと思います。食事の時には、スマホを見ているのではなく家族等との会話を楽しむこと、友達と遊ぶ時には、ゲーム画面を見ているだけというのも考えものです。この冬休み、スマホなどのメディアを意図的に遠ざけ、「昭和」を感じるのもいいかもしれません。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣

